

(別紙)

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）重点指導結果

事業実施主体名： SDGsによる白浜町地域未来創造協議会

令和7年5月26日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要
和歌山県 白浜町	令和3年度	SDGs（持続可能な開発目標）未来都市を念頭に、山村資源の有効活用による地域活性化を目指し、専門業者による資源調査、マーケティング調査及び商品開発調査などを行うとともに、専用SNS、ホームページ、リーフレットなどの各種媒体を整備した。 また、令和4年度には今後の事業展開の核となる法人「株式会社ひととき」を設立させ、民間主導による事業の継続が見込める体制を整えた。

1. 第三者の意見及び目標達成に向けた指導・助言等

（第三者の意見）

地域資源の基本調査にて白浜町内の農家・林業関係者・山主・地元産業従事者などへ聞き取り調査を行ったことで、和歌山の名産でもある南高梅、川添茶、椿油、富田の水など貴重な資源の存在を白浜町内で確認できたが、異常気象による天候不順で農作物の安定的な収穫が年々揺らぐ事態に見舞われている。川添茶や南高梅でさえも収穫量の激減と、農家を危機的な状況に追い詰める事態が生じているため、未活用資源の更なる調達が急務となったことから、一定量が自生しており今後安定的に収穫が可能な椿や、白浜町内の熊野古道大辺路から発見された古道酵母などの原材料を活用したスキンケア商品の開発に選択と集中することで、持続可能な商品製造への調整を行った6次化商品については、自然由来の化粧品である特徴を生かし、商品パッケージ、専用SNS、ホームページ、リーフレットなどの各種媒体を十分に活用されたい。

また、紀州材活用をしたサウナキットの開発と販売体制の構築については、国産材の普及に一役買う可能性を秘めており、今後の売上貢献が見込まれる。

今後は、本事業を継承する現地法人と協議会とが十分な連携もとで取組を進め、国内外への販路拡大や新商品による売上及び地域貢献につながるよう期待する。

（目標達成に向けた指導・助言等）

本事業を継承する令和5年4月に設立された、事業の運営を行う現地法人（株ひととき）を核に、協議会がバックアップしながら、商品に必要な原材料の確保や商品内容の改善に努めるとともに、新商品開発、国内外への販売促進に取り組まされたい。

2. 低調と評価された内容・要因

新商品の売上額について、以下の要因により販売工程に遅れが生じたことから、目標値6,225千円に対し、実績値363千円（達成率6%）となった。

- ・オンライン調査等で、開発済の自然由来化粧品のパッケージや商品の種類に関する改善点が顕在化したため、その改善に取り組んだ。
- ・自然由来化粧品の一部原材料の安定調達が困難なことが露呈したため、安定調達ができる原材料を利活用した商品開発に切り替えた。
- ・自然由来化粧品の取組を重要視したため、紀州材を活用したサウナキットへの取組開始に遅れが生じ、完成が令和5年度末となった。

3. 目標達成に向けた方策

令和5年度末に販売体制の構築が完了し、令和6年度からは、本事業を継承した現地法人「株式会社ひととき」が独立事業体制で運営を開始した。SNSを活用した国内外への販路拡大や自然由来化粧品などの販売を本格的に始めたことにより、売上の拡大を図る。

また、昨今のサウナブームでサウナ小屋の販売は右肩上がりに伸びているため、国産材の普及を目指して開発した地元紀州材のサウナキットを販売し、住宅等の建築に使用しない格落ち材の利活用によるコストメリットと、国産材であることから納品までの短期であることの2大セールスポイントにより、今後の販売につなげていく。

4. 改善状況

製品の特長を生かした販売促進を行い、令和5年度末までの販売実績の累計363千円に令和6年度中の販売実績6,207千円を加え、令和6年度末の販売実績の累計が6,570千円に至った。

なお、新たな商品としては、比較的安価である杉を基本とした既存サウナキットの上位仕様として、桧を基本とした紀州材サウナを開発し、道の駅「椿はなの湯」へ設置した。

これらの取組により、目標達成ができていなかった「商品開発」及び「売上」においては、共に目標を達成することができ、加えて「新規雇用者数」も1人増え、全ての目標の実績を伸展させることができた。

- ・新商品数：〔目標値13品に対し、実績値13品（達成率100%）〕
- ・新商品の売上額：〔目標値6,225千円に対し、実績値6,570千円（達成率106%）〕
- ・新規雇用人数：〔目標値3人に対し、実績値4人（達成率133%）〕